第８回やまぐち高校生県議会に参加してきました！！

宇部・萩地域版　　R4.11.1　開催

高校生県議会って？

次代を担う県内高校生に県議会の役割や県行政への理解と関心と高めてもらうため、平成27年度から実施されている模擬議会

高校生県議会　次第

- 議長開会宣言
- 知事あいさつ
- 高校生議員の自己紹介
- 高校生議員からの質問及び執行部答弁
- 高校生県議会からの意見書の提出・採決
- 高校生議員代表まとめあいさつ
- 議長閉会あいさつ

【宇部・萩地域の高校生議員の皆さん】
（厚狭高等学校）安達心愛・山﨑侠吾、（萩商工高等学校）坂本俊輔・中村雪菜、（慶進高等学校）飯田和真・鍋山侑花、（サビエル高等学校）池村汐音・加藤朱美・美濃しずく・吉永彩乃　※敬称略

安達議員（厚狭高）と飯田議員（慶進高）が、宇部・萩地域を代表して質問をしました！

【問】県として世代間交流するための場所・機会について、どのように考えているか。また、今後の展開があれば聞きたい。

【答】子どもから高齢者までの幅広い世代間の交流は、子どもの健やかな成長や高齢者等の生きがいの創出はもとより、地域の活性化にもつながる有意義なもので、その促進を図ることは大変重要と考えている。

　現在策定を進めている「やまぐち未来維新プラン」の重点プロジェクトに「交流拡大による活力創出プロジェクト」を掲げ、様々な分野の交流活動を促進していくこととしており、その一環として、山口きらら博記念公園を交流による活力創出の拠点として位置づけ、様々なイベントの実施や施設の整備を通じて、全ての世代が活発に交流する場や機会を創出をしていく。

【問】スマホへの依存状態が原因と考えられる不登校の問題に対して、山口県として取り組んでいること、又は今後取り組む予定について伺う。

【答】各学校では、警察や通信業者と連携したケータイ安全教室やＬＨＲ等において、ＳＮＳへの適切なかかわり方について学ぶ機会を設けているほか、スマートフォンの置き場所等、家庭でのルール作りに関する資料を作成し、保護者に情報提供している。

　さらに、スマートフォンへの依存が強い場合にはスクールカウンセラーや医療機関への相談につなげるよう支援しており、こうした取組を通して、家庭や学校等と連携しながら、スマートフォンの依存による不登校問題の解消に努めてまいる。

山口県議会のホームページには、これまでの高校生県議会の概要をはじめとして、議会に関するいろいろな情報が掲載されています。
https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/site/gikai/

質問と答弁（全文）

＜質問：安達議員（厚狭高）＞

私からは、元気な山口県をつくっていくための取組として、世代間交流をするための場所づくりについて、提案と質問をさせていただきます。

日本における家族の形態は、加速度的に変化してきています。かつては、家族の人数も多く、世代間を超えた人間関係を持つことができていました。しかし、現代では、単身や２人世帯が多くなり、家庭内での人間関係が単純化されてきました。

さらに、現在の山口県では、人口の減少と少子高齢化の進行が課題になっており、地域では、自治会・子供会の活動の衰退や、近所つき合いの希薄化が進んできています。実際、私の住む地区も子供の減少により、子供会がなくなりました。

このように、異世代が関わる機会が少なくなっていることは、社会全体の問題だと考えます。なぜなら、世代間交流は、社会性を育むために不可欠であり、交流することで元気や意欲、生きる活力をもらえ、健康への効果が期待できるものだと考えているからです。個人が自ら交流していくことは大切ですが、自治体等が機会を設けることが必要ではないでしょうか。ただし、一方の世代だけが満足するのではなく、相互に得るものがある交流でなければならないと考えています。

そこで、私は若者と高齢者が協働して駅弁の開発を行い、それを県内の過疎化が進み利用が少なくなっている駅で売るという企画はどうかと考えました。材料は山口県の特産品を使用し、場所は公共施設を利用します。高齢の方々には、食材の提供や調理指導といった役割を担っていただくことができれば、就労支援にもつながると思います。また、若者から刺激を受け、生きがいにもなります。

一方、若い世代にとっては、目上の人とのコミュニケーションの中から様々なことを学び、熟練した技術や地域の文化継承の機会にもなります。私の考える企画によって、異世代間の交流の促進だけではなく、私が通う厚狭高校のそばを走る美祢線のような廃線の危機にある路線の活性化にもつながるのではないでしょうか。

そこで、山口県の世代間交流に関する施策について質問させていただきます。人間関係が希薄化した社会の中で、私たち若者はこのような交流を経験し、山口県の人・故郷のよさや文化・伝統を学んでいける機会を必要としています。

また、実際、私が住んでいる地域の高齢者から話を聞くと、自分の経験を次世代に継承する場が欲しい、若い世代と交流する機会が少なくて寂しい、などといった意見が上がりました。現在は、異世代が集う場所も限られており、全世代が一緒に利用したくなる施設の整備や参加しやすいイベントの企画を行っていく必要があると思います。

このような中、県としては世代間交流するための場所・機会について、どのように考えていらっしゃいますか。また、今後の展開がありましたらお聞かせください。

＜答弁：知事＞

厚狭高等学校、安達議員の御質問にお答えします。

安達議員がおっしゃるように、子供から高齢者までの幅広い世代間の交流、これは大変重要なことだというふうに思います。子供の健やかな成長、そして、高齢者等の生きがいの創出、こうしたことはもとより、地域の活性化にもつながる有意義なものであります。この促進を図ることは大変重要であるというふうに考えています。

山口県におきましては、全国に先駆けて県内全ての公立の小中学校、高等学校、そして、総合支援学校等に導入をしましたコミュニティ・スクール、この取組の中で、子供たちが地域住民の皆さんの協力を得て、地域の伝統文化を学んだり、地元の産業を体験するなど様々な形で交流が行われています。

また、中山間地域では、地域の活性化に向けて地元住民と大学生が連携・協働しながら、地域資源を生かしたアート作品を作るワークショップを行い、発表会を開催するなど、世代の壁を超えた協働の輪が広がっています。

しかし、残念ながら、コロナ禍でこうした交流や活動の多くが影響を受けました。まだコロナ前の状態には戻っていませんが、コロナを経験したことで、私たちは人と人とのつながり、そして、交流の価値・重要性を改めて認識をしたのではないでしょうか。コロナの終息はいまだ見通せていませんが、私はこうした認識の変化をてこにして、今後、様々な交流活動をコロナの前よりも活発化をさせて、地域の新たな活力の創出につなげていきたいと考えています。

このため、県におきましては、現在策定を進めております県の総合計画やまぐち未来維新プラン、この重点プロジェクトにおきまして、交流拡大による活力創出プロジェクトを掲げました。その中で、文化・芸術、スポーツ、県民活動など様々な分野の交流活動を促進していくこととしています。

その一環として、例えば山口ゆめ花博など、これまで県民の元気を創出してきた山口きらら博記念公園を交流による活力創出の拠点として位置づけ、様々なイベントの実施や施設の整備を通じて、全ての世代が活発に交流する場や機会を創出をしていきます。そして、その取組やその効果を広く県内の各地に波及をさせていきたいと考えています。

私はこうした取組を通じて、若者だけではなく、あらゆる世代が交流・活動する機会を創出して、地域の元気と県全体の活力を高めていきます。

安達議員をはじめ、高校生の皆さんも、県のこうした取組にぜひとも積極的に参加をしていただいて、山口県を一緒に盛り上げていただきますようにお願いします。

また、安達議員御提案の駅弁の開発・販売、こうしたことは、地域の高校生、また高齢者の交流促進に加えて、駅や鉄道の魅力を高めて、地域全体の活性化にもつながる大変興味深い企画だと思って聞かさせていただきました。地域や学校の間で検討がさらに深まって実現に向けて進んでいくことを期待をしています。

ぜひとも世代間の交流がさらに進むことをこれから考えて、施策をしっかりと進めていきたいと考えております。

質問と答弁（全文）

＜質問：飯田議員（慶進高）＞

私からは、小中学生の不登校の増加に対する改善策について、３点質問をさせていただきます。

山口県の令和２年度の不登校児童生徒の人数は、小学生が６１１人で前年よりも１１１人増加、中学生が１,４５５人で前年よりも１３３人増加となっています。

また、日本全国での小中学校の不登校児童生徒は、前年に比べ、約１万５,０００人増加しています。

不登校の要因については、無気力・不安や友人関係などと言われていますが、私は、増加している理由の一つにインターネットの普及があると考えます。最近はスマートフォンを所有する小学生が増え、子供たちの生活がスマホ中心になる危険性を危惧しています。スマホ上でゲームやＳＮＳに夢中になることで生活のリズムを崩したり、配信動画内での誤った情報を真に受けて安易な選択をしたりすることが不登校の原因の一つとなっているのではないでしょうか。

そこで、１つ目の質問ですが、このようなスマホの依存状態が原因と考えられている不登校の問題に対して、山口県として取り組んでいること、または今後取り組んでいく予定のことはありますでしょうか。

現在学校では、スクールカウンセラーによるカウセリングを実施したり、保健室登校を可能にしたりするなど、様々な対応がされています。ただ、不登校の状態となると、家族以外の外部の者と関わる時間が減り、焦りや挫折感などの感情を自分の中だけで解決しようとしてしまいます。そんなときに自分の落ち着ける場所で先生や友人などの温かい言葉を聞けるということは、とても安心できるものがあると思います。

私たちは、その手段の一つとして、インターネットを利用してリモートで先生やカウンセラーの顔を合わせながら定期的に面談したり、オンラインで学校の様子を配信し、家庭内で授業に参加したりする方法が取れるのではないかと考えました。これらの方法で不登校状態の子供が安心を感じ、その孤独感や焦りを和らげることができるのではないでしょうか。

そこで、２つ目の質問ですが、インターネットを用いて子供たちと外部の者がコミュニケーションを取る取組を山口県として実施していますでしょうか。

近年、国は、不登校の児童生徒を対象に特別な教育課程を編成できる不登校特例校の設置を全国的に推し進めています。不登校特例校は、フリースクールなどとは異なり、公的な教育機関であるため、元の学校から転学でき、通常の小学校・中学校・高校等と同様の卒業資格を取ることができます。現在、全国には公立・私立合わせて２１校の特例校が設置されていますが、山口県にはまだ設置されていません。

そこで、３つ目の質問ですが、県として、今後、不登校特例校を設置する考えはありますでしょうか。また、設置に際しての課題等がありましたら、お聞かせください。

以上、３点質問します。御回答をよろしくお願いします。

＜答弁：教育長＞

慶進高等学校、飯田議員の、本県における不登校児童生徒の増加に関する３点の御質問にお答えします。

まず、スマートフォンへの依存状態が原因と考えられる不登校問題に対する、本県の取組についてのお尋ねです。

インターネットの普及により、児童生徒を取り巻く環境が大きく変化する中、飯田議員の言われる、スマートフォン等によるインターネットへの依存については、国の調査においても不登校の要因の一つとして挙げられており、この問題の解決に向けては、これからのデジタル社会において、児童生徒の皆さんが自ら判断し、自律した適切な行動を取ることができるよう、様々な取組を進める必要があると考えています。

このため、各学校では、警察や通信業者と連携したケータイ安全教室やロングホームルーム等において、ネット上の誤った情報に振り回されないことなど、ＳＮＳへの適切な関わり方について学ぶ機会を設けています。

また、児童生徒の皆さんがスマートフォンに依存しないようにするためには、保護者の方々と協力して取り組む必要があり、県教育委員会では、スマートフォンの利用時間や置き場所等、家庭でのルールづくりに関する資料を作成し、保護者の方々に情報提供しているところです。

さらに、スマートフォンへの依存が強い場合には、スクールカウンセラーや医療機関への相談につなげるよう支援をしており、こうした取組を通して、家庭や学校等と連携しながら、スマートフォンへの依存による不登校問題の解消に努めていきます。

次に、インターネットを活用して不登校の子供たちとコミュニケーションを取る取組についてのお尋ねです。

県教委では、これまでもＳＮＳや電話を利用した教育相談を行ってきましたが、昨年度新たに、１人１台タブレット端末を活用し、児童生徒がスクールカウンセラーや教職員とオンラインで相談できる体制を整備しました。

これにより、児童生徒の皆さんと画面を通してつながり、顔を見ながら悩みや相談を受け止め、問題を早期解決するよう努めています。

また、不登校の子供たちに、適切な教育機会を確保することも重要ですので、タブレット端末を活用して教材を配付したり、自宅と教室をつないで授業に参加できるようにするなど、ＩＣＴやオンラインの特性を生かした学習支援にも取り組んでいるところです。

県教委としましては、不登校の子供たちが必要とする教育相談や学習支援を受けることができるよう、取組の一層の充実に努めていきます。

次に、不登校特例校の設置についてのお尋ねです。

不登校児童生徒の支援に当たっては、一人一人の状況に応じた学ぶ機会や居場所を確保することが重要であり、不登校特例校は、そのための有効な学びの一つと考えています。

このため、県教委では今後、市町教育委員会や関係機関と連携し、本県の不登校児童生徒の実情やニーズの把握に努めるとともに、不登校特例校に関する課題を明らかにし、設置の可能性について研究していきます。

県教委としましては、今後も児童生徒一人一人の状況に応じた効果的な支援に取り組んでいきますので、皆さんも周りに欠席しがちな友人がおられましたら、ぜひ声をかけていただき、その人の気持ちに寄り添ってほしいと思います。

飯田議員をはじめ、皆さんが安心して充実した学校生活を送られることを願っています。

第８回やまぐち高校生県議会で採択された意見書

交通事故減少に向けた自転車道整備を求める意見書

私たち高校生が頻繁に利用する移動手段として自転車がありますが、自転車と車両、歩行者の接触事故が県内でも多数発生しています。県内の車道を通行する際、自転車と車両の距離が近く、危険な場所は少なくありません。また、歩行者と自転車が同じ一つの歩道を利用していることが原因での接触事故が多いことが挙げられます。特に、学校周辺の道路が狭い道が多いことや、交通量の多い道路に面している学校が多く通学時間には危険な場面が度々見られます。

そこで、これらの問題を解決するために私たちは、「自転車道の整備」を提案いたします。自転車が安全に通行できる道路整備を進めることで、歩行者や自動車の安全確保にもつながります。特に、学校周辺や交通量の多い道路において、歩行者、自転車、自動車それぞれが安全に通行できる道路の整備を行うことで、老若男女問わず安心安全に住みやすく、生活しやすい街になると考えたからです。

また、近年、地球温暖化の進行する中で、二酸化炭素の排出のないクリーンな移動手段として自転車の注目度は高まっています。自転車の利用を促進していくためにも、歩行者と自転車が分離された通行空間の整備に取り組む必要があります。

そのほかにも、公共交通機関が充実していない地域を多く抱える本県では、自転車を移動手段として選択する方は多くなっています。さらに、高齢化が進む我が県で、路線バスの廃止等、地域公共交通サービスをめぐる環境が厳しさを増す一方、高齢者の運転免許証返納者数が年々増加し、高齢者で自転車を移動手段として利用する方は増加傾向になると私たちは考えます。県内の交通事故による死亡者、負傷者共に高齢者が多く、一層の注意が必要なものとなります。

これから自転車を利用する人が、安全にルールを守って利用できるように、そして、普段から通勤・通学や移動の手段として自転車を使用する方が、より安全で便利な二酸化炭素の排出のないクリーンな移動手段として利用できるよう、自転車道の整備を求めます。

令和４年１１月１日

第８回やまぐち高校生県議会　議員一同

（代表提案者：野田学園高等学校　村岡　将多君）

提案理由を説明する村岡議員

高校議員代表まとめあいさつ

本日は、第８回やまぐち高校生県議会を開催していただき、心より感謝申し上げます。

事前学習会や本日の議場での質問など、普段の学校生活では経験できない多くの学びを得ることができました。

８月に開催された事前学習会の中で、山口県の最重要課題は人口減少と少子高齢化であるというお話を伺いました。山口県の人口は昭和６１年以降減少が続いています。

国においても、平成２０年をピークに人口は減少しており、令和３５年には、人口が１億人を割り込むと推計されています。こうした中、山口県では、やまぐち維新プランで、妊娠・出産、子育てと続く切れ目のない支援を行っておられます。それもあってか、令和３年の山口県の合計特殊出生率は１．４９で、全国平均の１．３０を上回っています。一方、ＹＹ！ターン支援など、豊かな自然と温暖な気候に恵まれた山口県への移住促進に取り組んだり、やまぐち維新プランにより働きやすい環境を整えているにも関わらず、国立社会保障・人口問題研究所による第８回人口移動調査では、山口県のＵターン率は全国平均の４３．７%を下回る４０．０%でした。

山口県が住みやすく働きやすい、そして、子育てしやすい地域であるという認識が県内外に浸透していないのか、現状は転出超過が続いています。

私たちは情報発信にたけた世代です。私たち高校生が山口県の魅力をしっかり学び、体験し、実感することで、卒業後にそれぞれの場所で山口県の持つ多彩な魅力を広く伝えられればと思います。

今年４月に民法が改正され、成年年齢が１８歳に引き下げられました。私たちは在学中に成年を迎え、大人として社会に出ていくことになります。

昨年の衆議院議員選挙では、山口県の投票率が最下位であったとのニュースを見ました。中でも２０歳以下の投票率は著しく低く、私たち若者が政治を自分ごととして捉え、選挙に積極的に参加する必要があると感じました。私も一人の社会人として、必ず選挙に参加します。

結びに、山口県民の一員として持続可能な未来社会の創出に貢献し、「活力みなぎる山口県」の実現のため、積極的に尽力し続けることを宣言し、決意表明とさせていただきます。

高校生議員代表　大津緑洋高等学校日置校舎

鴨川依乃梨さん

決意表明する鴨川議員